第７回100年企業顕彰　100年経営の会

経産大臣賞にマルト長谷川・ユアサ商事

100年経営の会（北畑隆生会長、事務局＝日刊工業新聞社）は１月30日、創業100年を超える優れた長寿企業を顕彰する「第７回100年企業顕彰」（日刊工業新聞社共催、経済産業省中小企業庁、日本商工会議所、全国商工会連合会後援）の贈賞式を都内で開き、計38社を表彰した。経済産業大臣賞の地域共栄部門にはマルト長谷川工作所、事業革新部門はユアサ商事が選ばれた。中小企業庁長官賞などのほか、東京都、茨城県、山梨県の知事賞もそれぞれ贈られた。また贈賞式後、モノづくり日本会議と連携し、長寿企業をテーマにした記念講演会、受賞企業の代表者らによるパネル討論も行い、長寿企業の知恵を現代に生かすための活発な議論が繰り広げられた。

第7回100年企業顕彰受賞企業（同賞内五十音順）

■経済産業大臣賞（地域共栄部門）
▽マルト長谷川工作所（新潟県）創業＝1924年、主な業種＝機械・工具
■経済産業大臣賞（事業革新部門）
▽ユアサ商事（東京都）1666年、商社

■中小企業庁長官賞
▽一條旅館（宮城県）1560年、宿泊業
▽及源鋳造（岩手県）1852年、鉄鋼・金属
■茨城県知事賞
▽木内酒造／木内酒造1823／木内の蔵（茨城県）1823年、食品
■東京都知事賞
▽コロンバン（東京都）1924年、食品
■山梨県知事賞
▽山梨通運（山梨県）1902年、運輸・倉庫

■100年経営の会会長賞
▽青源味噌（栃木県）1625年、食品
▽廣貫堂（富山県）1876年、医薬品製造業
▽高砂熱学工業（東京都）1923年、建設・設備
▽日本インシュレーション（大阪府）1914年、窯業土石製造業
▽ミツヤ送風機（東京都）1920年、機械・工具

■日刊工業新聞社賞
▽オーベクス（東京都）1892年、繊維製品製造業
▽久江田（石川県）1924年、繊維・衣料
▽クロセ（大阪府）1925年、機械・工具
▽中島製作所（佐賀県）1925年、精密機械
▽三好キカイ（兵庫県）1918年、機械・工具
■優良100年企業表彰
▽赤見製作所（東京都）1924年、機械・工具
▽イソダメタル（東京都）1905年、鉄鋼・金属
▽Wellеg（香川県）1925年、繊維・衣料
▽大澤ワックス（愛知県）1913年、プラスチック
▽小名木川ギヤー（東京都）1920年、自動車・部品
▽勝亦電機製作所（東京都）1916年、電機・電子
▽カワソーテクセル（大阪府）1877年、電力資機材
▽キクノ（愛媛県）1875年、セメント卸売ほか
▽グラパックジャパン（東京都）1925年、印刷
▽コムラ（和歌山）1910年、建築用板硝子販売
▽篠田実業（兵庫県）1918年、自動車特定整備事業
▽菅生（奈良県）1903年、商社
▽鈴幸商事（神奈川県）1875年、商社
▽須山木材（島根県）1877年、建材・製材
▽田村ビルズ（山口県）1879年、不動産・ディベロッパー
▽千代むすび酒造（鳥取県）1865年、食品
▽栃木屋（東京都）1913年、機構部品の企画・設計・製造（アウトソース）および販売
▽白寿生科学研究所（東京都）1925年、医療機器
▽深松組（宮城県）1925年、建設・土木
▽富士化学工業（和歌山県）1907年、化学
▽ユアサ（兵庫県）1925年、流通・サービス

経済産業大臣賞　地域共栄部門

マルト長谷川工作所社長　**長谷川 直哉 氏**

受賞にあたり、100年経営の会の皆さま、審査員の皆さまをはじめ、関係各位に深く感謝申し上げる。

当社は幸運なことに、創業80年の時に初代の創業時を知る方が存命で、徹底的に聞き取りをすることで創業理念を紐解くことができた。これが今の企業理念の礎となっている。掘り起こされた創業理念に示されていたのが「地域と共に歩む大家族主義」であり、今回の地域共栄部門の受賞はまさにその理念と重なるもので、本当に万感の思いだ。

そして、創業時から支えてくださったお客さま、取引先の皆さまの存在も当社の財産だ。160周年を迎える金物卸の企業は、当社がペンチを作るきっかけを与えてくださり、今も国内最大の取引先だ。145周年になる仕入れ先とは、帳簿上の最古の取引先同士として現在も深い信頼関係にある。さらに、燕三条地域には200年、300年続く企業や料亭、さらには元禄年間創業といった長寿企業が存在し、ここでそうした企業と共に生かさせて頂いていることを大変光栄に思う。

今回の受賞に甘んじることなく、私の使命として先人の炎をこれからも灯し続けていくことを誓う。

先人の炎 これからも灯し続ける

経済産業大臣賞　事業革新部門

ユアサ商事社長　**田村 博之 氏**

経済産業大臣賞という身に余る栄誉を頂戴し、心より御礼申し上げる。当社は現在、商社として株式を公開して事業を展開しているが、今回評価して頂いた「長寿」という強みは、私たちが会社として取りをすることで創業理念を紐解くことができた。これが今の企業理念の礎となっている。掘り起こされた創業理念に示されていたのが「地域と共に歩む大家族主義」であり、今回の地域共栄部門の受賞はまさにその理念と重なるもので、本当に万感の思いだ。

そして、創業時から支えてくださったお客さま、取引先の皆さまの存在も当社の財産だ。160周年を迎える金物卸の企業は、当社がペンチを作るきっかけを与えてくださり、今も国内最大の取引先だ。145周年になる仕入れ先とは、帳簿上の最古の取引先同士として現在も深い信頼関係にある。さらに、燕三条地域には200年、300年続く企業や料亭、さらには元禄年間創業といった長寿企業が存在し、ここでそうした企業と共に生かさせて頂いていることを大変光栄に思う。

今回の受賞に甘んじることなく、私の使命として先人の炎をこれからも灯し続けていくことを誓う。

も働く社員としても最も誇りとしてきた部分であり、その価値を認められたことに深い喜びを感じている。一方で近年、上場企業には短期利益を求める圧力が強まり、西洋型の株主資本主義の浸透も見受ける。その中で、あらためて中長期的な考えをもとに長年事業を営んできたことこそが日本の強みと言える。公益資本主義の考え方が注目され始めた今、西洋と日本の良さをうまく融合させ、新たなジャパンスタンダードを築くべきだ。

本会がこうした長期持続経営の価値を分析し、国内外に発信するという理念に感銘し入会したが、早々にこのような大きな賞を賜りありがたく思う。

当社は1666年、京都で木炭商として創業し、信用と誠実を旨として事業を積み重ね、現在は国内外2万6000社の取引先と関係を築いている。今後も日本企業として中長期の視点を大切に会社運営を続け、社会に貢献していきたい。

中長期視点を大切に社会に貢献

主催者あいさつ

審査にAI活用　専門家交え多面的に選考

100年経営の会 会長　**北畑 隆生 氏**

100年経営の会は2011年の東日本大震災を契機に発足し、苦難を乗り越えてきた長寿企業の経営にヒントを求め、研究と発信を続けている。長寿企業に共通するのは、短期的利益よりも持続的成長を選び、株主に限らず顧客・従業員・地域社会に責任を果たし、伝統を守りながら環境変化に応じ革新を重ねる点だ。本顕彰はこの趣旨を踏まえ、安定的成長、大きな発展を遂げてきた企業を表彰するもの。本年度から自治体の賛同を得て知事賞を設けた。また、初めてAI（人工知能）を活用した一次審査を導入し、専門家を交え多面的に選考した。

来賓あいさつ

成長経済に向け主役としての活躍期待

中小企業庁長官　**山下 隆一 氏**

本日の贈賞式に参列し、受賞企業の皆さまに心から敬意を表する。長く社会に価値を提供し続け、社会に受容され、経営理念を基に革新を続けてきた姿はまさに日本の力である。日本が成長経済へ移行しようとする今、その変化の担い手となるのは皆さまのような企業だ。大企業は組織の硬直性から変化に時間を要するが、100年企業は経営者と現場の距離が近く、時代に応じて変わる力を持ち、しかも現場力も強い。AI（人工知能）の進展で経営環境は大きく変化していくが、柔軟に適応できる。日本経済を前へ進める主役として、今後も活躍を期待している。

記念講演

世界から見た日本の長寿企業

蓄積された知恵・知識と価値観 強み

作家
コンサルタント
佐藤 智恵 氏

本日は「ハーバードから見た日本の長寿企業」をテーマに話したい。私が経営などに関する執筆を続けるのは、日本の強みを日本の皆さまに再認識してほしいからだ。ハーバード大学経営大学院では近年、AI（人工知能）やデータサイエンスが必修になる一方、歴史を学ぶ科目への関心が急速に高まっている。変化が激しく先の読めない時代の指針となるのが歴史で、さらにはAI時代に人間性を学べることからも歴史が注目されている。

その中で日本の長寿企業は特に注目されている。2024年には30人超の教員が来日し多くの老舗企業を視察。25年に新たに教材に取り上げられた日本企業が全て長寿企業だったことは私も驚いた。虎屋の事例では、後継者選定のルール、新商品を開発し続けるイノベーション、そしてお客さま第一の経営理念の継承が500年の存続を支えた要因と分析された。伊藤忠商事の教材では、近江商人の「三方よし」と現代のサステナビリティー経営の結びつきが示された。海外の廃棄物処理事業で社会課題の解決、社会貢献とビジネスを両立させたことは学生に衝撃を与えた。

日本の強みは歴史の中で蓄積された知恵、知識と価値観であり、100年、200年と続く企業はそれ自体が世界的な価値を持つ。今後もその強みを生かしてほしい。

パネルディスカッション

〈コーディネーター〉　北畑 隆生 氏
〈パネリスト〉
（経済産業大臣賞）
長谷川 直哉 氏　田村 博之 氏
（中小企業庁長官賞）
一條旅館代表社員　一條 一平 氏
及源鋳造社長　及川 久仁子 氏

一條氏

及川氏

100年企業顕彰贈賞式で賞状を受け取るマルト長谷川工作所の長谷川社長㊨

北畑　まず企業理念について伺いたい。

長谷川　80周年の際に初代を知る最後の方が存命のうちに聞き取りを行い、本にまとめた。そこで大家族主義と地域と共に歩むという理念が明確になった。リーマン・ショック時はこの理念が判断基準となり人は切らないと決め、現在の企業理念にもつながっている。

及川　60年前の社是は時代に合わず、15年にコーポレートアイデンティティーを導入し、「愉しむをたのしむ」というメッセージも掲げた。最初は理解されなかったが、体験を通じて浸透し、10年を経て根付いた。そこで新たに「鉄に〝愉しい〟を鋳込む」というミッションを掲げ、製品づくりにも反映している。

北畑　経営危機を克服する際に理念はどう機能したか。東日本大震災時の対応は。

一條　建物が奇跡的に無傷だったため、40日間の休業を決断し、雇用維持を最優先に、掃除をするよう伝えた。工事業者の仕事が途絶えていたため設備投資を同時に進め、再開時に備えた。コロナ禍でも個室料亭が強みとなり、制限を受けず満室が続いた。潮目を読み、ムードに流されず、情報収集とそれに基づく行動、雇用維持を徹底したことが現在の成長につながった。

北畑　伝統と革新の両立をどう考えるか。

田村　当社は1666年創業だが、歴史を振り返ると、時代を読んで変えてきたと言える。木炭商から刃物、金物、工具、工作機械、建材へと事業を重ね時代に応じて柔軟に領域を広げてきた。革新を意識したというより世の中の動きに合わせ積み重ねてきた結果であり、方針を変えるのではなくプラスしてきた。今は、人とモノをつなぐ商社の役目に技術と情報やデータもつなぎ、新しい付加価値を作って社会課題解決に役立とうとしている。

北畑　及源鋳造の革新の取り組みは。

及川　南部鉄器は古いイメージが強いが、1960年代に米国を見てきた先代がデザインを導入した。それが差別化になり、一つの革新となった。現在は環境配慮を重視し、二酸化炭素（CO_2）削減のために溶解炉キューポラの操業をやめ、塗装なしで錆びにくい独自技法で特許も取得した。900年続く南部鉄器の伝統を守りつつ安心・安全・環境を軸に進化させている。

北畑　日本の企業の多くは創業者一族が受け継いでいる。後継者問題はどうか。

一條　私は20代目で、地域から名前ではなく「若旦那」と呼ばれ育った。父からは地域のことを考えるのは一條家の務めだとは言われたが、後を継ぐよう強制された記憶はない。周囲の期待が自然と継承への意識を育てた。

北畑　上場企業において、これまで進めてきた（日本型の）経営方針に対して西欧型のコーポレートガバナンスや規制は違和感があるのではないか。

田村　現在、日本式経営を否定されるような要求が多く、日本企業が大切にしてきた価値観が軽視されがちだ。上場企業の責務として要求に対応しながらも、変えてよいものと変えてはならないものは分ける。ややもすれば四半期の数字しか見られなくなる。360年続いた企業としてそれだけに左右されず、三方よしとも通ずるが、誠実と信用を企業理念に掲げ、人間尊重、進取と創造を中心に据えて経営していく。

潮目を読み情報収集 ／ 安心・安全・環境を軸に進化

会員企業募集中（入会資格は、創業60年以上）
「長寿経営」を理論・体系化し、国内外に発信
100年経営の会
国内には創業100年を超える長寿企業が世界の半数を超える4万社以上あります。当会は、これら長期持続経営を新たな企業価値として体系化し、国内外に発信するとともに、長期持続経営を実践する企業や、それを目指す企業の交流の場として、日本経済の原動力となるべく活動しております。

100年経営の会 会長（元経済産業省事務次官）北畑 隆生

■勉強会事業
■長寿企業の価値の普及活動（シンポジウムの開催・情報発信事業）
■100年企業の顕彰事業（経済産業省・中小企業庁との連携）
■海外長寿企業・団体との連携

お問合せ／お申込み先　100年経営の会事務局　〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1（日刊工業新聞社内）
TEL：03-5644-7608　E-mail：100nen@media.nikkan.co.jp